



キリスト教センター通信 2022年5月31日 第57号

「チャペル - わたしの居場所」

チャプレン 司祭 河村博之

連休が終わりすでに初夏の陽気になってきましたが、学生のみなさん、お変わりありませんか。この時期になると心と体のバランスが崩れる方を見受けます。やる気はあるけれど、体がしんどい。反対に、体は異常ないけれど何となくやる気が出ないなど。大学生活を始めて緊張がほぐれ、高校とのギャップにこんなはずじゃなかった…。

特に神戸以外から下宿生活をしているみなさんにとっては、辛いものがあるかも知れません。

かつてのわたしもその一人でした。当時、垂水の山の上にあった大学は(現在の附属高校の隣)、大学とはいえ素晴らしい(?)自然環境の中、ここで4年間過ごせるだろうかと思ったものです。唯一の救いはチャペルでした。現在もあるレンガ造りのチャペルでの昼の礼拝。その当時は毎週火曜日と金曜日の昼休み12時15分から30分間。祈禱書による礼拝(午禱ごと)と教員による講話。火曜日はヨセフ田中愛次司祭。金曜日はジョン・カメロン・マクドナルド司祭。司式は火曜日は田中司祭か学生。金曜日は学生が行い、チャプレンは不在の時が多かったように思います。田中司祭は必ず15分ほどの説教をしてくださり、その日の礼拝出席者が学生1人でも、地道に真面目に確実に果たされました。マクドナルド司祭は大柄なカナダ人で、後にご病気のために退職されますが、ボソボソと語る日本語の中にユーモアと真実味が感じられました。

そのうちに金曜日の礼拝に誰も来なくなり、チャペルを覗くと誰もいない状況が続くようになりました。みなさんはどうされますか。誰もいないのであれば仕方なく帰るでしょうか。それとも席に座って、しばらくボーっとしていますか。

わたしが入学した年はいろいろな出来事がありましたが、1つだけ言えるのは毎日ではないにせよチャペルでの礼拝が行われていたこと。チャペル前の庭でベンチに腰を下ろして買ってきた250円の弁当を食べることが日課になっていました。図書館・食堂にも行きましたが、雨の時以外はここで過ごしていました。こうしたことがきっかけで、やがて学生生活が充実したものへと変えられていくのです。

「何よりもまず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」(マタイによる福音書6章33節)

今、わたしはチャプレンとして本学にいて、チャペルにいます。不思議ですね。みなさんには、ふさわしい居場所がありますか？

チャペル 一口メモ

KIUのキャンパスにはChapelチャペルがあります。十字架が掲げてありますが「教会」ではなく、学校・病院などに併設される「礼拝堂」を意味し、学校の生徒や教職員、病院の患者や医療関係者が祈りを捧げる場所です。海外ではショッピングモールや空港など買物客・旅行者が利用する場所や、珍しいところでは軍隊の基地にも設けられています。日本では結婚式場のチャペルのほうが知られていたりしますが…。

もちろん、信徒でなくても祈りを捧げることができ、チャペルに出入りしたから信徒になることを強いられることもありません。祈りを捧げるだけでなく、ちょっと一息つきたいとき、ひとりで何かを考えたいとき、黙想・瞑想したいとき…いつでもみなさんを歓迎します。



(神戸市垂水区学が丘の学院チャペル)

ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な子ども
たちのために、
あなたがウクライナの人々を抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教

